



女性協議会

民放労連女性協議会

第41回定期大会開催

10月4日(土)青山こども城にて、民放労連女性協議会第四一回定期大会が開催された。冒頭、労連女性協の城川議長からは、政府が検討に入った『企業への有休消化の義務付け』について、「普通の企業とは違い、有休でデイズ二ーラントに行くと言えば白い目で見られてしまう現状がテ

レビ業界にはある」とし、制度が整備されたとしても職場の理解を得るのが難しいのではないかと指摘があった。続いて、各地連からは、女性の採用が滞っているため高齢化が進み、40代も半ばで報道局に突如異動させられたという単組の報告や、時短勤務期間の延長を

求める声に対して、「時短は劇薬」としベビースイッチ割引クーポン利用の上限撤廃で手を打つよう会社側から押し切られたという単組の報告があった。育児時短については「女性のもの」と考える会社が多く、男性も含めてこの問題を考えていかねばならないとの声もあった。

そして、中四国地連からは6月に開催された「第五一回民放労連全国女性のつどいin広島」についての報告があった。基調講演を行

●女性協
URL
<http://www.minpororen.jp/women/index.html>



活動総括をもとに来年の企画を

興味深く、講演後も「育児と仕事の両立は具体的にどうしているのか？」など三〇分以上質問攻めとなっていた。

そして、フジテレビ労組の岸田書記長からは、来年5月30日(土)

「たアサー・ピナード氏については、「知名度に若干の不安があったものの好評に終わり安堵した」、それから「参加者へのお土産に用意したお菓子はすべて実行委員会のメンバーが直接メーカーに掛け合い協賛を得たもの」であるとの説明があった。実行委員会をはじめ、中四国からの参加者の大半が協力して運営したとはいえ大変な苦勞であったことを考えると、「その地区だけにとどまらず他からも助けを求めてもいい

のではないか」との声も上がった。

講演では、昨年10月に一七七年の歴史を誇るジャパントイムズ始まって以来の女性執行役員に就任した大門小百合さんをお招きし、お話を伺った。一児の母でありながら、世界を股にか

け活躍され、役員にまで上り詰めた大門さんのお話は

「働き方」に焦点をあてて議論を進めていくとの方針も発表された。また、地方に比べて会場費が高いため、人数を稼がないとペイできないとの懸念もあり、なるべく多くの方の参加を期待するとの要望があった。